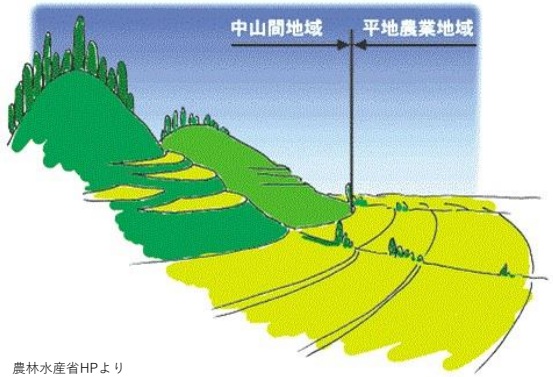
研究成果報告会「食料品アクセス問題の現在
―2020年食料品アクセス困難人口、ミクロでの影響、ローカルでの対応―」
2024年３月１９日(火)　15時00分～17時00分

食料品アクセスと高齢者福祉の関係：移動販売を事例にしたローカルな視点から

○丸山　優樹（農林水産省 農林水産政策研究所　研究員）
Email: yuki_maruyama220@maff.go.jp

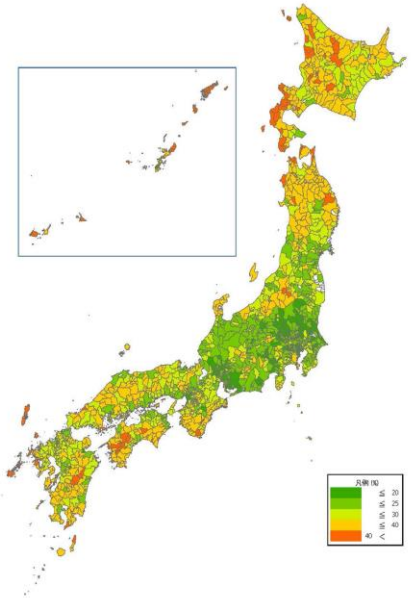
はじめに:　食料品アクセスをとりまく現状



農林水産省HPより
https://www.maff.go.jp/j/nousin/tyusan/siharai_seido/s_about/cyusan/

- 中山間地域の現状
  - ➢ 日本の総土地面積の約7割を占める（農林水産省Webサイトより）
  - ➢ 条件不利性が高い：人口減少や高齢化が著しい(倉持ら，2014)
    ⇒「小売サービス機能の低下」や「協同組合等のサービス縮小」によって、食料品アクセス問題が深刻化(高橋ら，2013)

- 食料品アクセス問題
  - ➢ 店舗までの距離といった空間的要因（薬師寺，2015）
  - ➢ アクセス困難度と栄養・健康面との関係（高橋ら，2020）
  - ➢ 心理的距離に着目し、食問題の解決に向けた地域コミュニティの重要性を提起（木立ら，2012）



食料品アクセス困難人口の割合（2015年・市町村別）
資料: 農林水産省農林水産政策研究所Webサイトより

複眼的な視点での食料品アクセス問題に対する議論の必要性

はじめに: 移動販売サービス

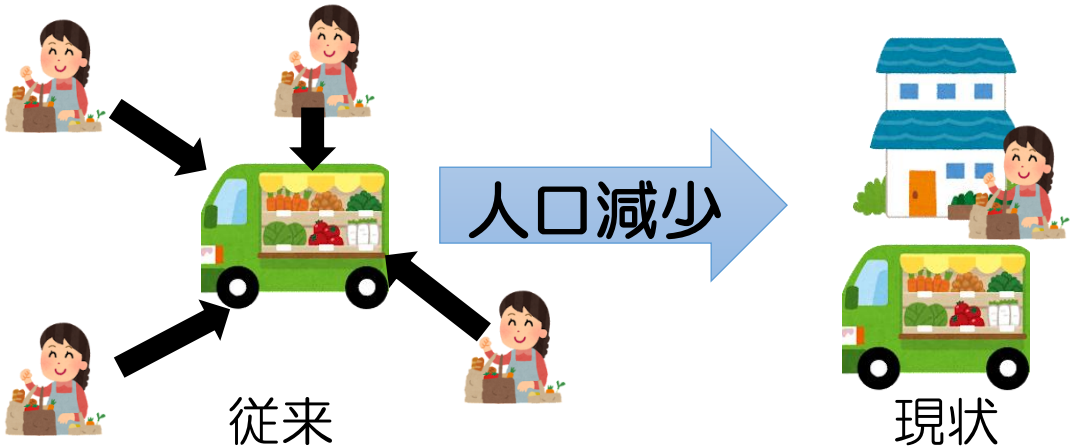
- 食料品アクセス問題への対応
  - ➢ コミュニティバス等への支援に次いで、「移動販売サービスへの行政的支援」が増加傾向

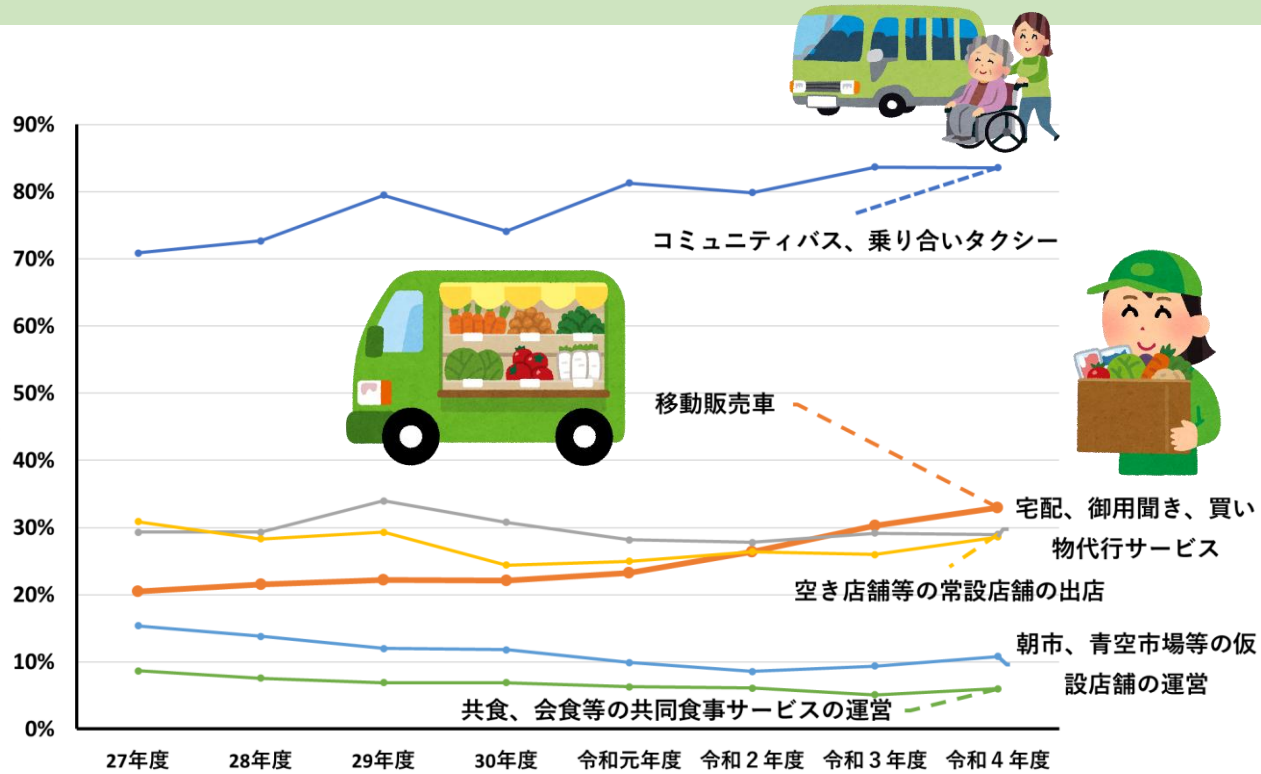
⇒移動販売サービスが解決策の１つ(倉持ら，2015)

- ➢ 移動販売の利用方法に変化

従来：利用者が集まりやすい場所に駐車して販売する方式

現状：個(戸)別販売



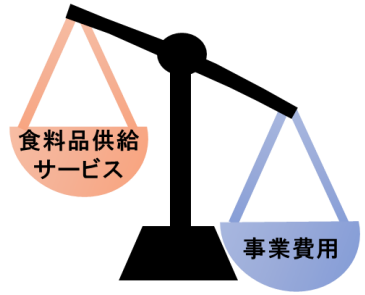


食料品アクセス問題の対策としての行政の取り組み

資料: 農林水産省「「食料品アクセス問題」に関する全国市町村アンケート調査結果」より

効率性や収益性の観点から経営環境が悪化

⇒運営を維持する上で補助金等が投入されているケースが多い



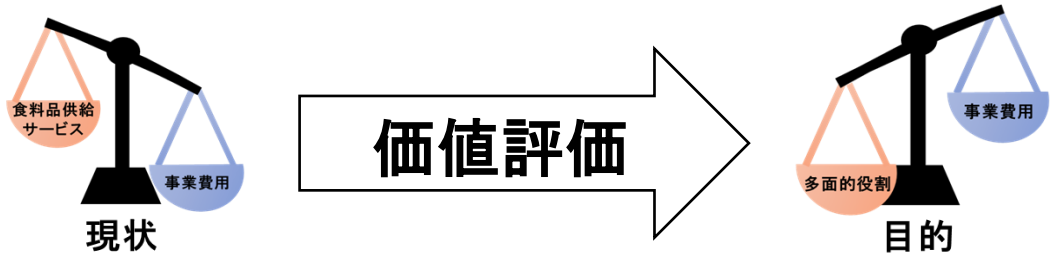
はじめに: 研究課題と目的

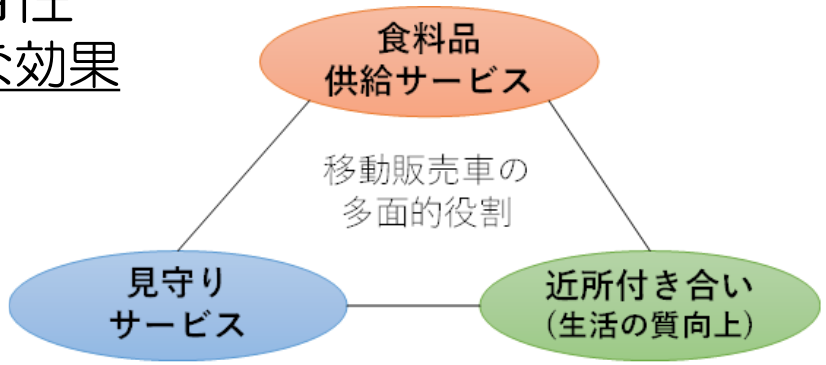
- 移動販売のもつ多面的機能（谷本ら，2015）
  - 見守り(安否確認)
  - 近所付き合い（生活の質の向上）
    (例：購買行動や会話、相談など)

多面的機能の重要性を定量的に評価
⇒機能全体の社会的な価値を定量的に評価する必要性を主張

- 問題意識：移動販売サービスに対する補助金の妥当性

⇒食料品の供給機能のみならず、そのほかの多面的（副次的）な効果も考慮した議論から検討が必要





目的：移動販売サービスによる、食料品供給機能を含めた機能全体の中で、
生活の質の向上といった多面的（副次的）機能がどの程度重要視されているのかを定量的に評価
①利用者アンケート調査、②事業継続に対する嘆願書データから評価

移動販売の利用者アンケート調査

調査: 鳥取県日野町を対象

- 消費者アンケート調査を2つの方法で実施
  - イベント会場ので調査：自治会が主体となって毎週１回実施する体操
  - 移動販売車の追尾調査：移動販売利用者に回答を依頼

- 調査日程：2023年1月から5月にかけて複数回実施

- 対象者：主たる利用者である65歳以上の高齢者

- 調査項目：
  - 個人属性（性別、年齢、世帯構成員数等）
  - 食料品の調達手段と利用頻度
  - 食料品調達時の移動手段
  - 移動販売サービスに対する利用者の選好評価
    ⇒ベスト・ワースト・スケーリング（Louviere et al., 2015）

写真: 発表者撮影

調査方法

- ベスト・ワースト・スケーリング

回答者が現在の移動販売サービスを利用する際に、
「もっとも気にする機能」と「もっとも気にしていない機能」を設問内から1つずつ選択

	移動販売車の機能	意味
1	訪問頻度・時間	現在の移動販売車が自宅を訪問する頻度と訪問時間を示します。
2	販売員との会話	移動販売車が訪問した際の販売員との商品や日常に関する会話を示します。
3	品揃え	食料品だけでなく日用品も含めて、現在販売されている商品数を示します。
4	生鮮品の鮮度	現在販売されている魚や肉、野菜などの生鮮品の鮮度(新鮮さ)を示します。
5	御用聞き・個別宅配	移動販売車が訪問した際に、簡単な家事や修理などを頼めることや個別宅配を示します。

最も気にしている機能	移動販売車の機能	最も気にしていない機能
	訪問頻度・時間	
✓	販売員との会話	
	品揃え	
	生鮮品の鮮度	✓

× 質問回数：5回
つり合い型不完備計画(BIBDs)に基づき作成

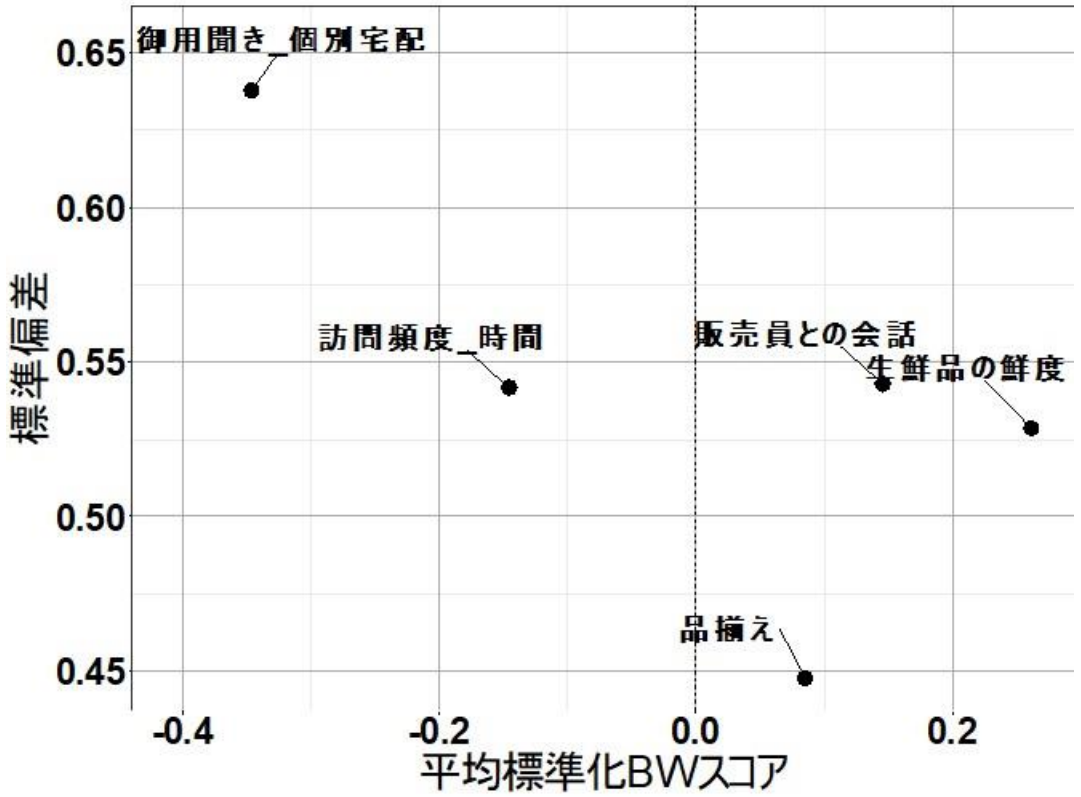
分析結果:

- 回答者数：195件（回答率：84.7%）
- 有効回答数：100件（移動販売サービスの未利用者等を除外）

- 移動販売利用者：女性、後期高齢者が多い
⇒買い物のために外出するのが不便になりつつある後期高齢者が、**食料品を容易に調達する手段**として移動販売を利用

	全体(100件)	
	度数	割合
男性	5	5%
女性	95	95%
前期高齢者(65歳以上75歳未満)	22	22%
後期高齢者(75歳以上)	78	78%
独居世帯	33	33%
体操イベントへの参加	60	60%
	平均	標準偏差
居住地区と中心地(根雨)間の距離[km]	4.51	3.51

注)地区間の距離については、地区の重心地点間の直線距離を表している



- 「生鮮品の鮮度」が最も重要視：
当該地域の移動販売事業者が販売する新鮮な鮮魚や刺身が人気商品である状況を反映
- 「販売員との会話」が重要
⇒「品揃え」よりも重要視される

高齢者は、移動販売利用時の会話に価値を感じている

- 軽視：
  - 「訪問頻度・時間」：利用者が変更できない項目
  - 「御用聞き・個別訪問」：選好のバラつき(個人差)が大きい

移動販売事業の継続に対する嘆願書データ(テキストマイニング)

データ

- 日野町の移動販売事業：

前任者が2022年9月を目途に事業からの引退を表明
⇒移動販売事業の継続に向けて方向性が見定まらない時期（自治体検討期間）

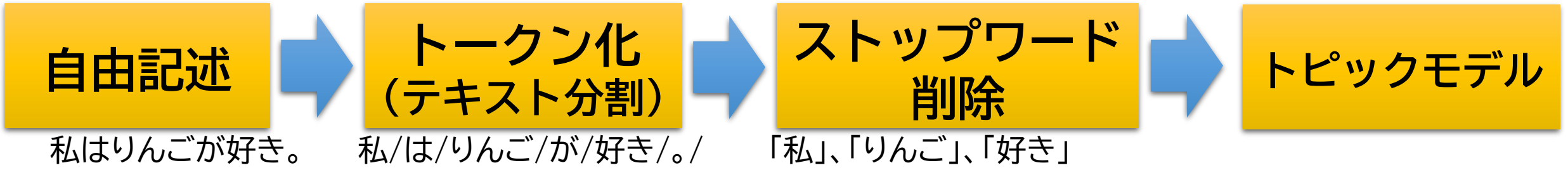
- 同期間に2022年7月に日野町民有志によって事業継続に向けた嘆願書が集められ、役場に提出された

⇒嘆願書は、日野町各地から提出され、多くの自由記述欄には、事業継続の必要性等が詳細に記載

- 全386件のうち自由記述に記載があった174件（45.1%）を分析に活用

嘆願書に記載された内容 ⇒ 重要であると認識している移動販売の機能 ≒消費者ニーズ

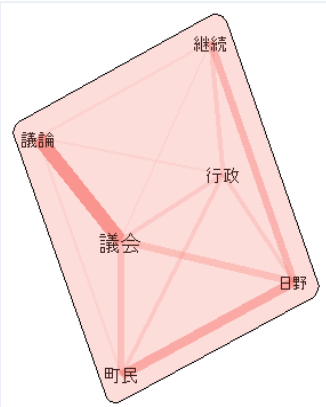
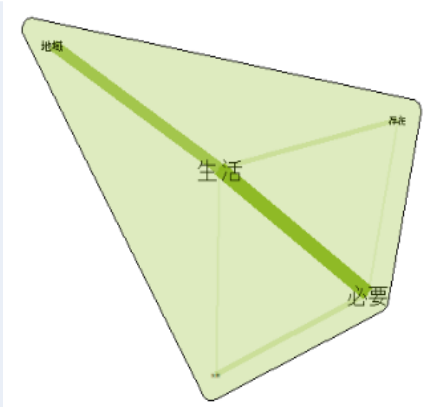
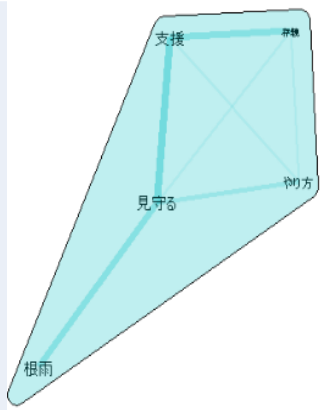
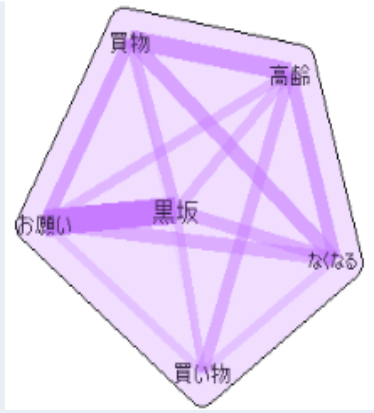
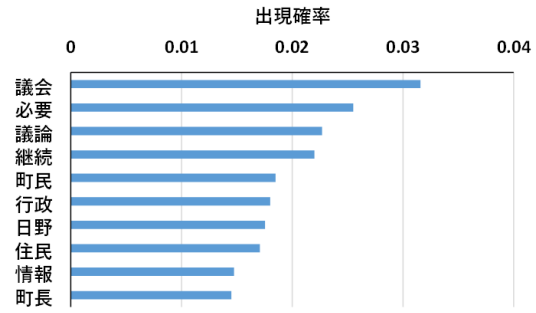
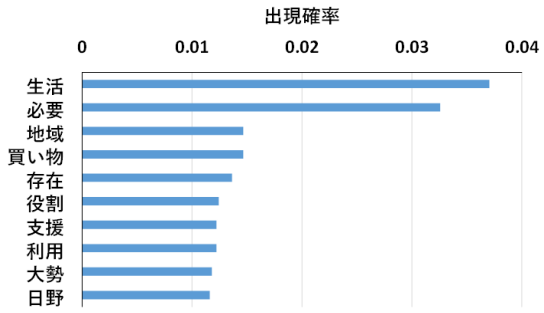
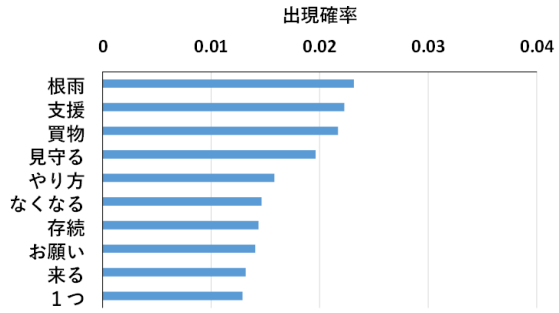
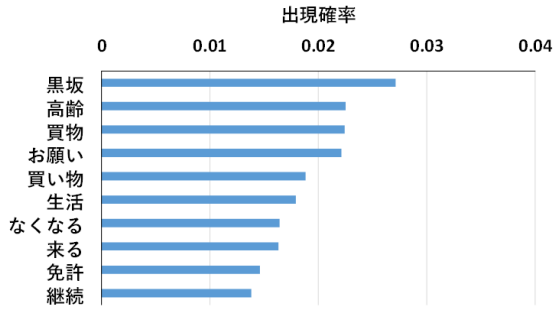
分析手法： テキストマイニング



- ストップワード: 直接テキストに影響しない冠詞や接続詞等
- ワードクラウド: 出現頻度に応じて該当単語を大きく図示
- トピックモデル: 一緒に出現しやすい単語によって記載内容をグルーピング

石田(2020);Silge et al. (2018);西田(2020)

分析結果③： トピックモデル

	トピック1	トピック2	トピック3	トピック4
所属確率	18.9%	21.8%	15.1%	44.2%
語句関係性				
頻出語				
	「自治体主体」の支援	「生活の支え」の機能 「住民主体」の支援	「見守り」の機能	「高齢者の買い物」の機能
対象者層	単身世帯	―	高齢者以外(65歳未満)	―

「見守り(トピック3)」、「生活の支え(トピック2)」といった「日常生活のサポート」の側面が評価

まとめ

アンケート調査による移動販売車の多面的機能評価

- 「販売員との会話」が「品揃え」よりも重視
  ⇒特に後期高齢者は、毎週の販売員とのコミュニケーションを食料品の購入よりも重視しており、生活の質の維持・向上に寄与している可能性
- 独居世帯：御用聞き(日常生活の補助)が求められる

嘆願書データからの移動販売車に対する消費者ニーズの評価

- 「高齢者の買い物機能(トピック4)」が多くの利用者から重要視
- 食料品供給だけでなく、「見守り(トピック3)」、「生活の支え(トピック2)」といった「日常生活のサポート」の側面が評価

移動販売サービスが有する多面的機能は「食」と「福祉」の両面から評価
⇒これらの機能の価値を自治体・町民が認識し、将来に残していく（事業が継続される）ために**買い支え意識**を醸成していくことが必要

参考文献

ご清聴ありがとうございました

【外国語文献】

- Louviere, J. J., Flynn, T. N., & Marley, A. A. J. (2015) The BWS object case, in Louviere, J. J. ed., *Best-worst scaling: Theory, methods and applications*, Cambrige: Cambridge University Press, 14-55.

【日本語文献】

- 石田基広 (2017)「Rによるテキストマイニング入門」 森北出版.
- 木立真直, 高橋克也 (2012)「食料品アクセス問題の現状と対応（フードデザート・買い物弱者などの多面的視点から）」『フードシステム研究』18(4)：432-434.
- 倉持裕彌ら (2014)「中山間地域における買い物支援に関する考察ー移動販売に着目してー」『社会技術研究論文集』11：33-43.
- 倉持裕彌ら (2015)「官民の役割分担に着目した移動販売の持続可能性の改善に関する考察ー中山間地域を対象としてー」『運輸政策研究』18(2)：2-11.
- Silge J., Robinson D. (2018) 「Rによるテキストマイニング」大橋真也監訳・長尾高弘訳, オイラリージャパン.
- 高橋克也, 薬師寺哲郎 (2013)「食料品アクセス問題の実態と市町村の対応―定量的接近と全国市町村意識調査による分析から―」『フードシステム研究』20(1)：26-39.
- 高橋克也 (2020)「食料品アクセス問題と食料消費、健康・栄養」筑波書房.
- 谷本圭志ら (2015)「中山間地域における移動販売サービスの顧客層に関する実証分析」『都市計画論文集』50(3)：324-330.
- 西田豊 (2020)「トピックモデルによるアンケート自由記述回答の潜在意味解析」『INSS journal: Journal of the Institute of Nuclear Safety System』27：31-37.
- 薬師寺哲郎 (2015)「超高齢化社会における食料品アクセス問題ー買い物難民、買い物弱者、フードデザート問題の解決に向けてー」ハーベスト社.

本調査には、日野町の町民の皆様ならびに日野町役場企画政策課の皆様の多大なるご協力の下で実施することができました。この場を借りて御礼申し上げます。